

当事者のストレングスと情熱が実る農福連携！！当事者の力を活かす福祉サービス事業所と地域との協働を紹介します！

○大江 真吾¹⁾、別宗 利哉²⁾、澤邊 友彦³⁾、長山 豊⁴⁾、大江 真人⁴⁾、山口 千夏⁴⁾

1) 石川県立看護大学、2) GENESIS 株式会社 NEIGHBOR AGITO / CAGULA、

3) 株式会社ポタジェ ハーブ農園ベザン、4) 金沢医科大学 看護学部

【背景】

日本の農業では高齢化と後継者不足によって担い手が減少している状況にあります。また、これまでの障害者の就労に関する調査では、障害者の働く場の少なさや就労継続支援B型事業所での賃金（工賃）の少なさが指摘されています。この状況の打開策として農林水産者は、農業と社会福祉の関係者が連携した障害者の農業法人での雇用または障害者支援施設での作業に農業を取り入れるための「農福連携」の取組みを推進しています。これらは、農福連携を障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取り組みであるともいわれています。先行研究でも障害者のQOLの向上や認知機能の改善、就労意欲の向上などの効果が報告されています。

一方で、農福連携の推進にあたってはいくつかの課題があります。障害者を受け入れる事業所には、受け入れる障害者の背景や障害特性に合わせて適切な技術指導を行える人材の確保や安定的に仕事を提供できる体制の構築、障害者が就労する上で安全に作業ができるかなどの課題を解決する必要があります。また、今回のワークショップで紹介する事業所でのグループホームに入居している障害者の継続的で有意義な就労の継続のためには、障害者を就労場所以外でもフォローしたり、それぞれの障害者に合った仕事の内容や方法を見極めて安定的に仕事へ送り出すことができる必要があります。今回のワークショップでは、精神および知的障害などの障害をもつ方を受け入れている福祉事業所と障害者を就労場所以外で支援するグループホームとの連

携、地域の事業所とのつながり・信頼関係と成果を積み上げてきた過程について報告します。その上で、みなさんと農福連携の推進について考えていきたいと思っています。

【目的】

農福連携の現状、それぞれの立場で実践されている工夫や課題について共有し、農福連携をさらに進めていくための意見交流会です。農福連携について興味がある方、現在農福連携を進めているが難しさを感じている方、これから農福連携を実践したいがどのように進めていけば良いかアイデアが欲しい方、当事者のストレングスや情熱を活かした支援を行いたいと考えている方、みなさんでディスカッションしましょう。

【進め方】

本ワークショップでは、まず農福連携の取り組みについて説明を行います。その後、就労継続支援A型・B型事業とグループホームの事業所間での協働について報告します。その後、看護職の立場からみた農福連携について報告します。演者からの報告後、参加いただいた皆様と一緒に農福連携についてディスカッションを行い、より良い農福連携の在り方について考えていきたいと思っています。

【倫理的配慮】

本ワークショップで語られた内容については、参加者の個人情報に配慮し、口外しないことをアナウンスします。ワークショップ内が、自由で安全に意見交換ができる場となるよう、配慮をしながら進行します。